

千葉市立病院再整備基本構想について(補足資料)

1 新病院開院時の病床数について

- 基本構想では、2030年時点での新病院の1日当たりの入院需要は319人以上と想定しており、地域の医療需要に応えるためには380～430程度の病床が必要としている。
- しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会情勢の変化などにより、将来の医療需要に対する不確定要素も多くなってきていることから、2025年度の開院時は、青葉病院から40床移行する分を加え333床程度での開院を見込んでいる。
- 千葉保健医療圏では、人口減少が見込まれるものの、2030年に患者数がピークとなり、その後も高齢者の入院需要は増加していくことが見込まれる。市立病院においても今後の市内の患者動向なども考慮しながら、引き続き地域医療構想調整会議等で市内医療機関との連携・協議を進めながら、最適な機能や規模について継続的に検討していく。

2 医療提供体制（医師・看護師の確保）について

- 新病院では、救急体制の構築、がん診療の強化、小児・周産期医療の集約など、総合的な診療科の整備をするために、医師の増員を検討している。
- 新病院の整備に当たっては、千葉大学医学部附属病院と診療機能の役割分担や連携、医師の派遣等について協議していく。
- また、現在も、小児科領域の専門研修基幹施設として医師の育成にも力を入れており、今後は、主要診療科においても基幹研修施設を目指すなど、医師の確保を図っていく。
- 看護師等については、県内の大学等からの実習受入や病院見学会などを積極的に行うことで、例年募集を上回る応募があり、今後も一定の看護師等の確保が見込まれると考えている。